

上智大学国文学会 二〇二三年度夏季大会開催のご案内

二〇二三年度の夏季大会・総会を左記の要領にて開催いたします。

今回は、研究発表に加え、藤原克己東京大学名誉教授ならびに石井公成駒澤大学名誉教授をお招きしてシンポジウムを開催します。四年ぶりの対面開催と併せて、実り多い大会となることと思えます。

懇親会も予定しておりますので、どうぞ奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

二〇二三年六月

上智大学国文学会会長

服部 隆

記

【日時】 二〇二三年七月一日(土) 午後一時～

【場所】 上智大学七号館十四階特別会議室

【研究発表】 (午後一時～)

○『方丈記』五大災厄の章段の語り 성격 ―連語「かとよ」から考える、『大鏡』との関係―

上智大学文学研究科国文学専攻前期課程

小山咲也香

○藤原定家『拾遺愚草』釈教「向かはれよ」詠について

ノートルダム清心女子大学准教授

星野 佳之

【シンポジウム】 (午後二時三十五分～)

テーマ 「源氏物語の表現の達成」

登壇者 本廣 陽子 (上智大学文学部教授) 「複合動詞から観た源氏物語の表現」

石井 公成 (駒澤大学名誉教授) 「仏典から観た源氏物語の表現」

藤原 克己 (東京大学名誉教授) 「漢籍から観た源氏物語の表現」

司会 瀬間 正之 (上智大学文学部教授)

科学研究費 基盤研究(C)(一般)課題番号 21K00268

令和3年度～令和5年度 研究代表者…本廣陽子

【上智大学国文学奨学金授与式】

【総会】 (午後五時二十分～)

一、役員(会計監査)の改選

二、二〇二二年度決算

三、二〇二三年度事業計画・予算案 他

【懇親会】 (午後六時～)

【会場】 上智大学二号館五階教職員食堂

【会費】 四千円

*卒業生の集う機会として、懇親会からの出席も大歓迎です。

*準備の都合上、六月二十六日(月)までにお申し込みください。

二〇二三年度夏季大会

研究発表要旨

『方丈記』 五大災厄の章段の語りの性格 — 連語 「かとよ」 から考える、 『大鏡』 との関係 —

上智大学文学研究科国文学専攻前期課程 小山咲也香

『方丈記』では連語「かとよ」が、古本系統の大福光寺本で二例、前田家本で三例、流布本系統の一条兼良本および嵯峨本で四例用いられている。この「かとよ」という語は、『方丈記』の時代には、散文において用例の少ない語であった。また、『方丈記』における「かとよ」は全てが、前半部の五大災厄の章に使用箇所が偏っているうえ、例外なく時を表わす語に付属する形で用いられている。短編である『方丈記』で、二例から四例確認されること、更にその使用形式が全て同一であること。これらに作者の意図を見出すべきではないだろうか。

本発表では、和歌・歌合判詞・散文における「かとよ」の用例を確認しつつ、『方丈記』において「かとよ」がどのような意味を持つのか、作者がこの語を用いた意図とは何か、考えていきたい。また、用例を調査するなかで、『方丈記』が『大鏡』の文体を踏まえている可能性が見えてきたため、二作品の関係性についても検討を行う。

藤原定家『拾遺愚草』 釈教「向かはれよ」詠について

ノートルダム清心女子大学准教授

星野 佳之

藤原定家『拾遺愚草』雑・釈教所収の「母の周忌に法華経六部みづからかきたてまつりて供養せし一部の表紙にゑにかかせし歌」八首（二七五四〜六一）について考察を試みる。

法華経各一卷に一首を宛がって詠まれたこの八首の内、七卷「向かはれよ木の葉しぐれし冬の夜をはぐくみたてし埋火のもと」については、久保田淳が初句を「報いとなる」という自動詞「ムカハル」の命令形、「埋み火のもと」を詠者定家を育てた母の膝下と捉えて「母への報恩となるように」と解釈したのが通説である。

これに対し、五句は法華経七卷「薬王菩薩本事品」の「如寒者得火」を踏まえ、初句を「移動動詞ムカフ＋尊敬ル」と取って「祖母のもとに往かれよ」と母に呼び掛けた歌という試案を発表した（和歌文学会 令和四年一二月例会）が、その際「他の七首全てに法華経各巻との対応が見出せるか」などの課題が残った。今回改めて考察し、可能であれば八首の構成の理解に及ぶたい。

シンポジウム趣旨

物語文学史上、卓越した文学的達成を遂げた源氏物語は、表現の面でもそれ以前の作品とは一線を画し独自の高度な発展を遂げている。源氏物語は、それ以前の和漢の多くの文学作品や仏教など、様々な要素を取り込み、それを作品内部で変容させて、新たな作品世界を形成した。その過程で、新しい表現方法が工夫され、新しい言葉が用いられ、源氏以前には到達出来なかった物語表現が生み出されていくことになる。

本シンポジウムは、漢籍との関わり、仏典との関わり、複合動詞といったそれぞれの方面から、源氏物語の表現を分析し、議論を通して、源氏物語の成し得た表現の達成を考えたい。